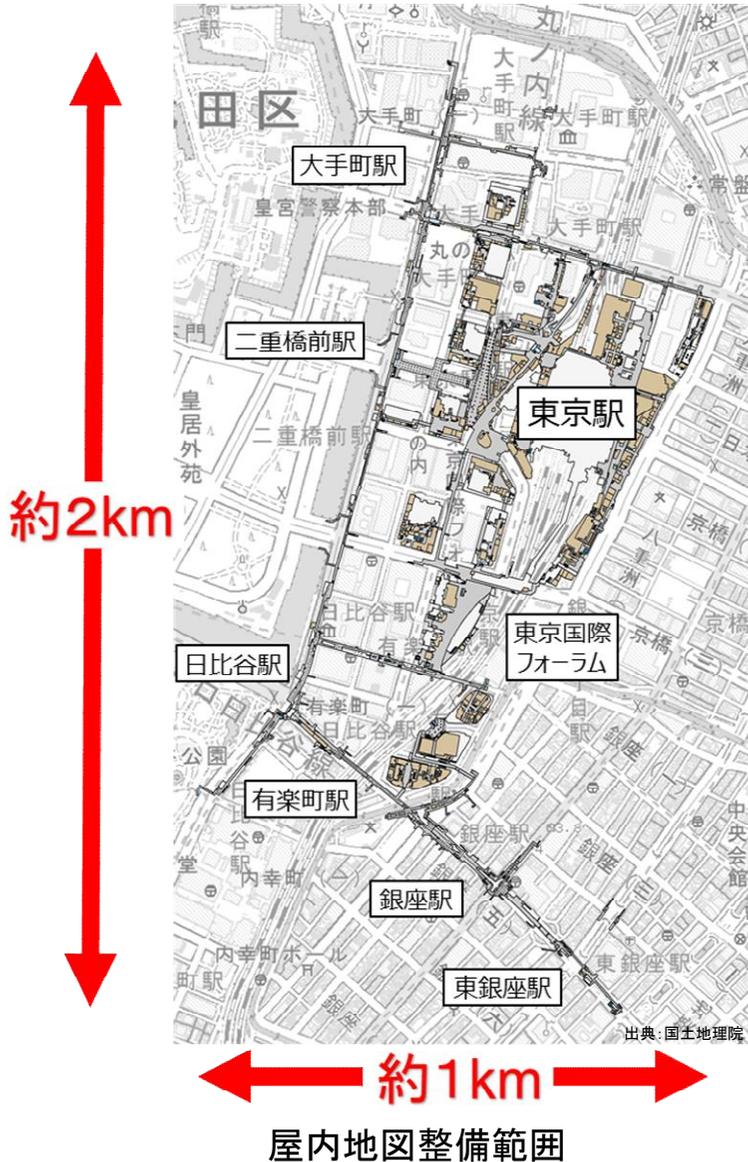
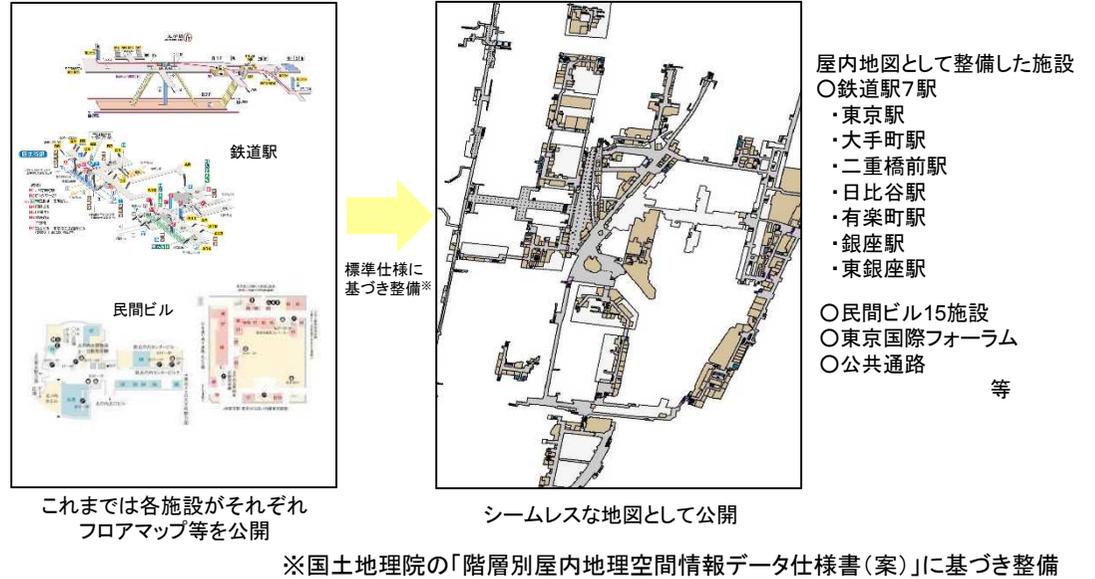


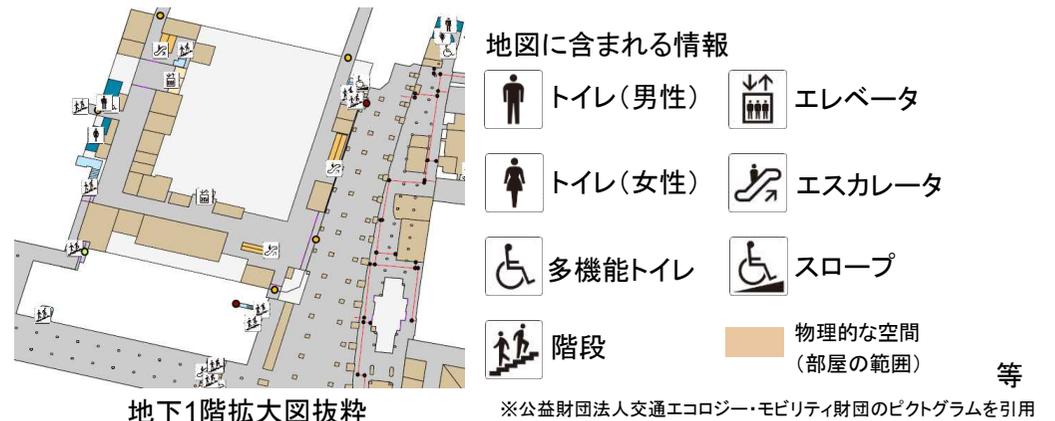
□ 東京駅を中心とした東西約1km、南北約2kmの範囲を対象



□ 複数の鉄道会社や民間ビル、公共施設等にまたがる通路を関係者の協力によりシームレスな地図として整備



□ サービスの基盤となる屋内地図として、公共的な通路や階段、トイレ、エレベータ等の施設データ等を含む



- 2020東京オリ・パラを契機に、屋内や地下空間を含めた屋内外シームレスなナビゲーションを実現するため、先導的なモデルとして屋内電子地図・測位環境を整備し、実証実験を実施。
- 民間事業者等による様々なサービスが実現できる環境づくりを推進。

## ▼ 空間情報インフラ(屋内電子地図、測位環境)の整備

- 実証実験エリア(東京駅周辺、成田空港等)において屋内電子地図を作成、測位機器(ビーコン)を設置
  - 連携業務※において階層別屋内地図の標準仕様書を策定
  - 設置したビーコンはパブリックタグ※に登録
- ※国土地理院業務
- 実証を通じ、屋内測位手法の実現可能性検証、屋内外シームレス測位の技術的検証、屋内測位環境構築ガイドライン(骨子案)を作成

## ▼ Android、iOS端末によるナビゲーションアプリの試作・サービス実証

- 車いす利用者に向け段差のない/少ないルートのナビゲーション、日本語版・英語版の試作
- アプリストアで一般公開を行うとともに、被験者に現地で実際に使用してもらい、屋内位置情報サービスの評価を実施
- 民間のアプリベンダーなどに実験環境を公開し、屋内電子地図・測位環境等の評価を実施  
(平成28年度11団体、平成29年度8団体が参加)



サービス実証箇所と実証アプリの画面



段差情報を踏まえたナビゲーション実証



実証実験で設置したビーコン(例)

- 屋内での位置情報を活用した多様な民間サービスの実現に向け、屋内電子地図等の整備・流通の推進のため、「G空間情報センター」を中核として位置付け、施設管理者や地図調整業、サービス事業者などから構成されるプラットフォームを構築。
- 産学官連携の下、実証実験箇所以外についても、素材データの収集・加工、屋内電子地図の利活用等を推進。

